

新聞データベース活用

－新聞データベースを活用した授業実践－

仙台市立五橋中学校 教諭 及川勝成

<http://www.sendai-c.ed.jp/~sinbun17/>

キーワード：新聞データベース、中学校、2年生、国語、意見を書こう、投書欄

1. はじめに

今回の実践は、平成17年度仙台市教育センターの情報教育推進委員会における、新聞データベース部会（有識者1名、委員5名）の取り組みによるものである。当委員会は、『確かな学力と豊かな心をはぐむ情報教育』を研究主題に、新聞データベース部会としては、「新聞データベースを活用した授業実践を行うことにより、児童生徒の情報活用能力を育成するための具体的手順について探り、提案する」ことを目的としている。

2. 授業実践の計画

(1) 研究テーマとの関連

＜研究主題＞

情報活用の実践力を高める学習指導の一試み －新聞データベースの活用を通して－

＜授業研究の視点＞

□生徒の情報活用の実践力を高める

→新聞データベースを活用することで、生徒の情報活用の実践力を深め、広げられるようにする。

□新聞データベースのより効果的な活用の可能性を探る

→教師の教材研究のみならず、生徒に一斉活用させる等の機会を設けて、その可能性を探る。

□活用により、教科（単元）の目標を達成させる

→教科（単元）の目標を、より確かに、しっかりと達成できるような指導過程を考察する。

(2) 授業評価や検証の方法等

○情報教育の目標リスト（別紙参照）との照合による評価

○事前・事後のアンケートの実施、分析、考察

○事中のワークシートの分析、考察など

3. 授業実践の概要（指導案抜粋）

《 国 語 科 学 習 指 導 案 》

日 時 : 平成17年11月7日（月）5校時

指導学級 : 仙台市立五橋中学校2年5組36名

(1) 単元について

本単元では、①自分の立場を明確にして意見を述べるためには、どのようなことに注意しなければならないかを再確認させること、②新聞（情報や意見）を題材として取り上げ、自らの課題意識に応じて適切な情報や意見を受け取り、取捨選択する力をつけさせること、③自分自身が選んだ情報や意見をそれぞれの課題意識にもとづいて再構成させ、自らの立場や根拠を明確にした意見を文章化して発信させること、をねらいとしている。

新聞の中にある、読者からの投書や社説などには、生活者としてまた専門家として、いろいろな立場や視点から意見が書かれている。書き手が、何について、何を根拠に、どのように考えたのかも明示されており、意見を述べる際の参考になるとともに、生徒自身も自分の立場を明確にしやすいのではないかと考えられる。

ここでは、生徒の社会的事象に対する興味・関心を引き出すとともに、自分自身の立場を明確にし、その立場になって自分の意見を論理的かつ的確に主張するという体験をさせるため、新聞の中にある情報や意見を題材として取り上げ、それに対する意見文を書かせるようにしたい。

(2) データベース活用の利点

本学習材は、他者の意見に反対であるとき、その理由を明らかにして反論する技術の習得を目的としている。そのような反論の訓練のためには、その対象とする文章は、原則として次のような条件に従って選択されることが望ましいであろう。①主張が明快であり、その主張を支える根拠がきちんと書かれていること。②論じるのに、特殊な専門知識を必要とせず、日常の関心から、ごく自然に議論に入っていけるような内容を持っていること。③読み手を刺激し、自然に反論を返したくなるような文章であること。これらの条件を、確実に満たすものとして、一番身近で適切なものが、新聞の投書欄に寄せられた意見の文章であるといえる。幅広い年齢層の、実にさまざま視点から述べられた、しかも“掲載”という形の各新聞社の厳しい“推敲”がなされた、選りすぐりの文章揃いである。そんな投書欄の文章を、過去にさかのぼって、しかも自らの興味・関心や課題意識に応じて焦点化して効率的に情報を収集できるのが、新聞データベース活用の最大の利点と考える。

(3) 指導にあたって

情報活用に関する、生徒の事前アンケートの結果（別紙参照）では、“情報を手に入れようとする際によく使う方法”（よく使うものを上位3つまで選んで回答）は、①インターネット・28名、②テレビ・26名、③本や雑誌・22名であった。家でインターネットを使用している生徒も、36名中27名と多く、技術科や総合の授業において取り組んでいることもあり、“調べたいことがあったときに情報を検索することがある”という生徒も、“ときどきある”も含めて同数程度おり、コンピューターに対する関心は高いといえる。

新聞に対しても、“毎日読む”という生徒は少なかったものの、“ときどき読む”を合わせれば24名にも上り、決して意識が低いわけではない。また、本校は2年間のNIE実践協力校を経て、今年度も、日本新聞販売協会による全学級に対する新聞の提供事業が継続しており、朝の会・帰りの会などでの新聞記事の紹介や、教科や各学級においてのスクラップ活動は、日常的に定着しつつある。そんな生徒たちにとって、過去にさかのぼって目当ての記事を手にするという有効性は、大いに感じ得られるものと考えられる。

授業においては、それらの実態を十分に踏まえた上で、生徒たちの興味・関心を上手く引き出せるような展開を構築していきたい。

(4) 単元全体の指導計画（省略）

(5) 本時の指導

①ねらい

新聞には、投書欄に読者の“意見”が掲載されていることに気づき、その構成や表現方法を理解するとともに、自らの課題意識に応じて、反論する話題を考え、選択することができる。

②データベースの活用

反論文を書く際の、もととなる適切な文章を見つけることは、多くの生徒にとってやや難しい作業であるといえる。まして、生徒のさまざまな興味・関心に応えられるような、多種多様な話題についての文章となるとなおさらであろう。そこで本時では、新聞の投書欄の存在とデータベース検索の活用をそれぞれ紹介することで、生徒の適切で効率的な題材選びの一助としたい。

③指導過程

段 階	主な学習活動と指導上の留意点	提示資料および検索活動	目標リストとの照合
導 入	①新聞の投書欄の存在を知る ・実際に新聞の投書欄の中で繰り広げられている議論を資料として取りける。 ②意見の述べ方を確認する ・意見交換の様子を通して、賛成意見や反対意見の述べ方の要点を確かめる。	○投書欄に、特集として取り上げられた議論の紙面 ○意見や根拠が明確に述べられている投書記事（中高生の投書記事）	(I) (VI) (I) (VI)
展 開	③興味や関心のある意見を考える ・現在自分の興味や関心のある話題で、意見文が書けそうなものを考える。 ④反論する意見文の根拠をあげる ・自分が選択した話題について、反論の根拠となるものをいくつかあげる。 ⑤新聞データベースで検索する ・話題についての直接の反論の投書や、反論の根拠に関する記事を検索する。	<グループ活動で行い、テーマを絞り込む> <グループで話し合ったものを、各自がワークシートにまとめる> ◎話題についての反論の投書や関連記事を、投書欄や全紙面より検索	(I) (II) (III)
まとめ	⑥選んだ記事を紹介する ・選び終わった生徒から、その記事を紹介し、決まらない生徒の参考にする。 ⑦次時の見通しを立てる ・選んだ記事をもとに、自分の意見をまとめ、意見文を書くことを知る。	○生徒が選んだ記事 <可能な限りプリントアウトする> <各自の意見文は、ワープロを用いて文章構成を行うようにする>	(V) (IV)